

目 次

1. はじめに	1
2. 既往の関連研究と本研究の位置づけ	1
2.1 国総研における関連研究と本研究の位置づけ	1
2.2 その他の関連研究と本研究の位置づけ	1
3. モデルの設定	2
4. 将来シナリオの設定	2
4.1 人口	3
4.2 生産要素Ⅰ：土地	3
4.3 生産要素Ⅱ，Ⅲ：非熟練労働力および熟練労働力	3
4.4 生産要素Ⅳ：資本	5
4.5 生産要素Ⅴ：天然資源	6
4.6 全要素生産性（生産要素技術）	7
4.7 関税率（輸入税率）	8
4.8 輸出補助金	9
4.9 国際輸送技術（輸送費用）	9
4.10 輸入財と国内財の代替弾力性	9
5. 将来貿易額等の推計結果	10
5.1 将来貿易額の推計結果	10
5.2 将来GDPの推計結果	10
6. 各変数における感度分析結果	11
6.1 感度分析(1)：人口および非熟練・熟練労働力	11
6.2 感度分析(2)：資本	11
6.3 感度分析(3)：天然資源	11
6.4 感度分析(4)：全要素生産性	11
6.5 感度分析(5)：関税率	11
6.6 感度分析(6)：輸出補助金	12
6.7 感度分析(7)：輸入財と国内財の代替弾力性	12
6.8 感度分析(8)：政府支出比率	12
7. おわりに	13
謝辞	13
参考文献	13
付表	15
付図	22
付録	58

